Seto Inland Sea Folk History Museum
瀬戸内海歴史民俗資料館

武田明（たけだあきら） 資料の追加寄贈について

民俗学者 柳田国男（やなぎたくにお）、折口信夫（おりぐちしのぶ）、渋沢敬三（しぶさわけいぞう）ゆかりの資料が寄贈されました。

香川県文化功労者（昭和52年）であり、香川県の民俗学の大先達であった武田 明（1913－92）氏の蔵書・調査・研究資料については、平成7年（1995）の3月（2,055 点）及び5月（109 点）に長男総一郎氏（多度津町在住）から瀬戸内海歴史民俗資料館に寄贈されました（『武田明文庫目録』1995）。寄贈された書簡や書籍、調査ノートなどは、今も後継の研究者や地域研究者に利活用されています。

今般、武田明氏の 33 回忌を機に、書斎に残されていた柳田国男からの葉書や折口信夫筆の色紙、渋沢敬三や宮本常一（つねいち）らと参加したアチック・ミュージアム（常民文化研究所）の瀬戸内海島嶼（とうしょ）巡訪時の記念写真や調査ノートなど、111 点の追加寄贈がありましたのでお知らせします。

なお、今回寄贈された資料のうち 4 点（別紙）については、11 月 30 日（土）～2 月 24 日（月・休）の日程で瀬戸内海歴史民俗資料館に展示します。

記

1　主な寄贈資料

柳田国男関係（葉書・原稿・恵贈図書など）	30 点
折口信夫関係（結婚祝い色紙、大学講義ノートなど）	6 点
調査ノート（瀬戸内海島嶼巡訪・仲多度郡廣島村採集帖・徳島県祖谷地方など）	15 点
調査用具（カメラ）	2 点
聞取り音声テープ	16 点

2　展示資料

期　間　　令和 6 年 11 月 30 日（土）～令和 7 年 2 月 24 日（月・休）
場　所　　瀬戸内海歴史民俗資料館　第 1 展示室
内　容　　①柳田国男からの葉書　1 点
②折口信夫から贈られた結婚祝いの色紙　1 点
③アチックミュージアム瀬戸内島嶼巡訪調査時の記念写真・調査ノート　2 点

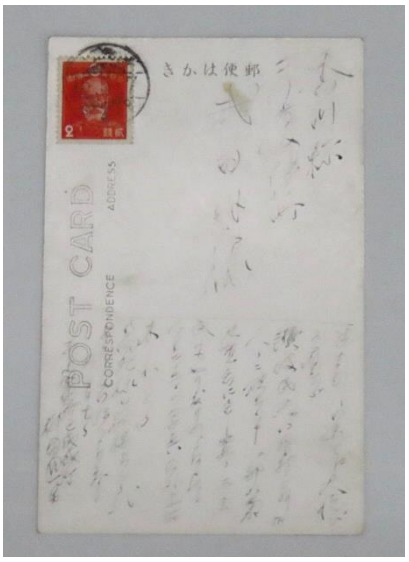
※寄贈者に取材を希望される場合は、必ず事前に下記までご連絡ください。

申込み・問合せ　**瀬戸内海歴史民俗資料館**　（担当：田井・松岡）
〒761-8001 香川県高松市亀水町 1412-2
電話 087-881-4707　FAX 087-881-4784

（別紙）

展示予定の資料

① 柳田国男からの葉書　１点

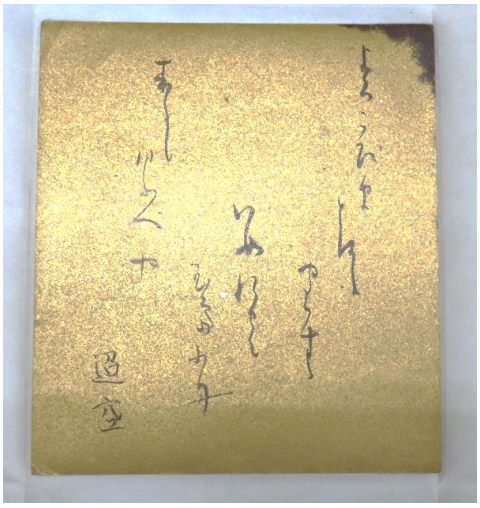


武田明は慶応大学在学中から少なくとも週１回は柳田国男の主宰する研究会に通ったという。師と仰いだ柳田からの手紙や葉書は生涯を通じて 50 通近くに及ぶが、そのうち最も有名なエピソードを物語る葉書が本資料である。

4 月 18 日の日付をもつ葉書は昭和 22 年（消印判読不詳）と推定されるもので、明は昭和 17 年に父親を亡くし、昭和 21 年 10 月に兄の戦死（昭和 20 年 3 月死亡）の報を受け、21 年 10 月に武田家の家督を相続するとともに、戦後推されて第１回公選に基づく多度津町長に 22 年 4 月に就任した直後の葉書とみられるものである。

「世のために学業をおすてにならぬよう願い上げ候」の柳田の言葉は、昭和 26 年に町長 2 期目の途中で身体をこわし退任し、その後民俗学研究者としての道を歩んだ明にとって、心の支えとなったとされる葉書である。

② 折口信夫から贈られた結婚祝いの色紙　１点



明は、慶応大学・同大学院在学中に折口信夫の講義を受けるなど親交があった。昭和 22 年 12 月に結婚した武田明のもとを翌 23 年 1 月に折口信夫は訪れ、「よろこびを　とはにまもらむ　妹乗せて　玉島小島　来にし夕べや」の歌を詠んだ色紙を贈った。

折口信夫は柳田民俗学とは別に国学や古典からの着想をもって折口民俗学を立てたが、釈超空の名前で歌人・詩人としても著名であり、色紙には超空とある。

今回の寄贈資料には、慶応大学時代の折口の講義ノートも複数冊みえる。

③ アチックミュージアム瀬戸内島嶼巡訪調査時の記念写真・調査ノート　２点

瀬戸内島嶼巡訪調査時の記念写真

渋沢栄一の孫敬三は、実業家、政治家のかたわら民俗学にも関心を寄せ、自宅にアチックミュージアム（屋根裏博物館）を私設し、宮本常一らを全国に派遣し、特に漁村・漁業資料や民具の収集に力を注いだ。

渋沢は、昭和 12 年には自ら船を仕立て、「瀬戸内海島嶼巡訪調査」として岡山から香川県域の島々を調査し、大学院在籍中の武田明も加わった。

今回の寄贈資料には、断片的ではあるが、この時の調査ノートとみられるものも含まれている。